

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071400594		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ西新 (ユニット名 たんぼぼ、こすもす、すずらん)		
所在地	福岡県福岡市早良区城西2丁目9-18		
自己評価作成日	平成25年11月17日	評価結果確定日	平成26年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/i/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;li_gvovsoCd=4071400594-00&amp;Pr_efCd=40&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/40/i/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;li_gvovsoCd=4071400594-00&amp;Pr_efCd=40&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年12月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

事業所の設立から13年を経過し、地域への認知度も浸透してきている。介護のノウハウや得てきた知識を基に地域貢献できる事はないかと運営推進会議等で情報発信を行っている。それぞれにおもむきが違う3つのユニットで成り立ち、気の合うご入居者に会いに他階に遊びに行かれたり、レクリエーションで顔を合わせる事で生活の質の向上につながっている。職員もユニット間で活発に行き来を行っているため、協力体制が構築できている。法人全体では経験年数やキャリアや専門性に分けられた社内研修制度が充実しており、スキルアップする機会が多くつづられている。キャリアラダーに基づき職員がなりたい自分を目指せるよう支援を行う等、人材育成にも力を入れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西新の駅にも近い、静かな住宅街の中にある、3階建ての3ユニットで構成された「グループホームウィズライフ西新」は、開設から今年で13年を迎える。昨年から全面的に内装工事を行いバリアフリー化し、今年には玄関横や庭の改修工事を行なった。玄関横の大きなソテツのシンボルツリーの横や、藤棚の下で日光浴やティータイムが出来る清潔感漂う施設である。ウィズグループのブランドで市内で広く介護業に携わり、職員は全体の研修制度やスクール等も利用して、スキルアップも図られ、入社から2~3年後には施設長やケアマネージャー等に成りたいと目標を定めモチベーションを高めている。利用者の生活の知恵等を教えて貰いながら、職員も一緒に生活させて頂いているという感謝を伝えながらサービスをしており、「利用者が自分らしく住み慣れた地域で最後迄、一人ひとりが自分らしい人生を送って頂きたい」という思いで支援を行っている。地域との連携にも積極的に取り組んでおり、今後も地域のみならず、福祉業界の発展にも期待出来る事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく最期まで」「新しい家族」と文言を理念に掲げている。入社時に理念の説明を行い、毎月の全職員ミーティングにて唱和し意識づけを行っている。	新入職員の研修時に理念についての説明を行い、理念は詰所内に掲げ、月1回のミーティングで参加職員全員で唱和している。管理者等からも関わりの中での気づきや疑問点も伝え、日々の中で理念を立ち戻りや振り返りを行い、年1回は職員全員で理念に沿った支援が出来ているかを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンに毎月参加させていただき、地域の方との交流を持っている。 2ヶ月に1回発行している広報紙ウイズライフ通信を近所に配布し、地域行事等への参加、施設行事への参加を呼びかけ、交流している。	町内会にも入会し、事業所1階を開放し、施設も参加して年1回の町内会の役員会が行われ、回覧板も回ってきている。利用者も地域公民館の催しに参加し、学校の実習生や、職場の体験学習の学生も定期的に受け入れ、地域との交流が行われている。	公民館の催し等へ、利用者も参加し日常的な交流は良好であるが、地域の方が立ち寄られる事が少ない為、認知症ケアや介護相談等の取り組みを通して、地域の方がいつでも来訪出来る関係づくりを進めて行かれる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で介護技術等の伝達を行っている。 ウイズライフ通信にて豆知識として情報を載せている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告等を行っており、議事録を作成しお渡ししている。 頂いた意見への取り組みも行っている。	月1回「ふれ合い通信」を家族に郵送し、エレベーター内にも掲示して運営会議開催の案内を行っている。2カ月に1回運営会議を開催し、利用者や家族、民生委員や地域包括が参加し、最近も「居室の掃除を徹底してほしい」等の意見が出て検討し、施設のサービス向上につなげている。	定期的な運営会議が開催され、利用者や家族からの意見の対応策は、後日、運営会議参加者には議事録での報告が行われているが、他家族等には運営会議の議事録の公開は行われていない為、今後は議事録をファイルに綴じ込み、公開したり配布される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、定期的な通信の配布、施設行事の案内、研修生の受け入れにも協力し連携を図っている。	運営会議には民生員や地域包括支援センターの参加があり、市役所に行く事は少ないが包括支援センターで相談や助言等や、入居者の紹介も受けており、協力体制の構築は出来ている。	包括支援センターとの協力体制は出来ているが、さらに区役所等の手続きややり取りは直接窓口に行く事で顔見知りの関係となり、相談し易い関係作りを構築される事を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し、伝達研修を行う事で全職員の理解を深めている。全体ミーティングや申し送り時等に身体拘束に繋がりそうな事について話し合い、防止に努めている。	玄関のドアは自動ドアで、外出時はボタンを押して誰でも出入り出来、日中の施錠は無く身体拘束も行っていない。離設される方は職員が付き添って庭先等を散歩し、落ち着かれて帰設している。言葉掛け等は職員間でもその場や月1回のミーティングでも注意し合い、ウイズグループ社内研修も受講し身体拘束をしないケアの理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、伝達研修を行う事で全職員の理解を深めている。全体ミーティングや申し送り時等に虐待に繋がりそうな事について検討し、防止に努めている。		

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、伝達研修を行う事で全職員の理解を深めている。 入居時にご家族に説明し、必用に応じて随時説明を行っている。	母体のウィズグループ全体研修会が毎月行われ、その中で権利擁護に関する研修は毎年行われている。参加出来なかった職員へも内部への伝達研修を行い、成年後見人制度利用中の利用者2名の、事例を通して職員への内部研修も行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に施設内を実際に見ていただき、質問等あれば都度お応えできる体制を整えている。 契約時には説明を丁寧に行い、疑問点にはお応えしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回の家族会や定期的なご家族アンケート、家族面談等でご意見をいただいております。サービスの質向上に努めている。 伺った苦情・要望は職員で共有し、ケアプランに反映させ対策等を行っている。 苦情窓口として施設内・公的窓口を重要事項説明書に記載し説明している。	母体法人からも、年1回利用者の家族宛てにアンケート調査を行っている。意見のあった時点で「苦情・要望シート」を作成し、早期対応と情報共有に努めている。毎回ケアプラン更新時に満足度調査を行い、集計・個別対応を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談等で意見を提案し、取り組みを行っている。 また職員がそれぞれ係りに属し、係りとしての活動を通し、意見提言を行っている。	日々のケアの中で職員間で意見交換し、職員の意見で係り決めを行う様になり、「育成と生活向上係」や、「研修の係」等を決め、係りが意見を取りまとめて、管理者へ意見や提案をおこなっている。今月は「排泄係」の提案から、排便状況改善などに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握に努めると共に、自己評価・個人面談を基に必要に応じた育成を行い、自分が目指したいキャリアを目指すよう支援を行っている。給与体系は一覧表を作成し、説明を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に際して、性別・年齢・経験・資格等を理由に採用対象より排除する事はしていない。 職員一人一人が目標を立てて取り組んでおり、得意としている事を行かせる環境づくりに取り組んでいる。個人面談等を定期的に行い、個々に合わせたスキルアップに向けた支援も行っている。	以前は外国籍の職員もおり、採用時の制限は無く、休憩時間や希望休も取れている。母体事業所が「なりたい自分になろう」というキャリアラダーを設け、2～3年先の目標設定で「施設長・マネージャー・生活相談員・看護責任者」等を職員が個々に決めて、グループ全体で支援対応している。個人面談も年2～3回あり、グループ内のスクール等も利用出来る体制が整えられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部・内部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。 会議・ミーティング・申し送りなどで日頃から話し合っている。	ウィズグループ全体で毎月1回定期的に研修が開かれ、年1回は人権研修が行われている。職員が参加し、受講出来なかった職員へ、資料等で伝達研修を行っている。	グループ全体の定期的研修を利用し、年1回の内部研修等が行われている。実務者研修も受講されている為、その中での人権研修を利用して、資料を開示し内部へ伝達研修を行い、知識を深められる事を期待したい。

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回自己評定を行い個人の力量を把握している。法人内の経験年数によって段階分けされた研修体制を整えている。外部研修への経験年数や役職・役割に応じて参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ入会しており、協議会の研修やブロックごとの勉強会に参加する等交流・情報交換の場を設けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会し、ホームでどういう生活を送りたいかを伺う機会を設けている。入居前に体験入居やショートステイの利用を提案し、ご本人の話を聞く機会、他ご入居との橋渡しを行い安心できる環境づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの過程を伺う機会を作り、ご家族の要望を受け止め不安の軽減に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の意向を確認し、職員間で必要なサービスの見極めを行っている。必要に応じて他職種へ働きかけ、他サービスへの提供へ繋げている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「新しい家族」の理念のもと、得意とするところを活かしながら、ご入居者・職員が相互に共生していくという意識を持てるような関係作りを築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の日々の生活状況を都度お伝えし、協力をいただきながらご入居者を一緒に支えられるよう取り組んでいる。行事等への参加を促し、ご家族と共に楽しい時間を過ごせる場を設けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から入居前の情報をお伺いし、趣味活動や地域交流等が継続できる環境づくりに努めている。	昔から利用されている理美容に行ったり、昔馴染みの大衆劇場や、どんたくや山笠の見物や、帰宅願望のある方は自宅に連れて行く事もある。家族には月1回「ふれあい通信」の便りを送付している。字の書ける利用者には手紙を書いてもらい郵送し、文字の書けない利用者には家族に電話を掛けて、家族との関係も疎遠にならない様に努めている。	

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各行事で他ユニットの方々との交流を行ったり、普段の生活の中においても一緒の時間を過ごしていただく中で、会話の橋渡し等を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大きな行事にはお知らせを行い、年賀状等の挨拶も行うことで継続した関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からご本人の意向の把握し、申し送り等で職員間で情報共有を行い意向に沿った支援を努めている。困難な場合はご入居者の気持ちに沿った支援を提供している。	事業所独自のアセスメントシートを使用し、ケアプランの更新時や状態の変化時に再アセスメントを行う。本人や家族から意向を聞き取り、確認が難しい利用者は家族に相談したり、「こういう時の表情が良いね」等を職員間で話し合い共有し、思いの把握に努めている。病院退院時のケアカンファレンスにも立会い、病状の把握や意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から入居前の生活状況をお聞きし、在宅時の生活習慣や環境を尊重した支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活・身体状況を記録に残し、ミーティングや申し送りの際において職員間での情報共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成前にご本人やご家族の要望等を伺い、計画に反映させている。また職員間でも日々の生活・身体状況をカンファレンスで話し合い計画を立案し提供する。必要時には他職種との連携や意見交換を行い担当者会議等で相互確認を行い、支援の修正を適宜行っている。	利用者1人に各担当職員が付き、1か月毎に評価を行う。1か月のケア会議の予定表を詰所に掲示し、定期的にモニタリングが行われる。主治医や医療連携室からも意見を貰い、介護計画の修正や作成をしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には介護計画に沿った内容を記入している。日々の中で気づきがあれば記録に残すと共に職員同士が申し送りを行い情報共有を行い、必要時は介護計画に活かしている。		

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2・3階の一般浴槽での入浴が難しい方は1階の介護用の浴槽を利用させていただくなどご入居者の状況に応じて対応できるよう全ユニットで協力体制を整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員等に参加を頂いている。 ふれあいサロンや地域行事に参加し、地域で生活を行う一人として役割を担っていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の希望があれば、継続できるよう支援し、受診時にはホームでの生活・身体状況の報告を行っている。 状況に応じ受診に職員が付き添い、状況報告等を行い適切な医療が受けられるよう支援をしている。	以前のかかりつけ医を利用されている利用者もあり、提携医の診療も自由に受ける事ができる。施設内で歯科往診や提携医で予防接種の受診も可能で、緊急時には個人別に病状・アレルギー・掛りつけ医を記入したカードを作成しており、救急隊にすぐ渡せる様に対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・受診・医療連携の看護師等訪問時に日々の状況を報告、相談して助言をいただきながらご入居者の健康管理を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中面会に伺い現状把握とご入居者の不安軽減に努めている。早期退院に繋がれるよう医療機関・ご家族と情報交換や相談・退院後は必要に応じ医療関係者の介入支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族面談時、担当者会議等で必要に応じてご本人・ご家族の意向を確認している。医療機関を含め状況に応じた話し合いを行い、今後の方針を共有している。 他ユニットとも情報共有を行い、全体で協力体制を図っている。	事業所での看取りは年間1～2名を対応しており、施設内で葬儀まで取り行う事が出来る。入所時に基本シートで終末期について記入して貰い、ケアプランの更新時にも再度記入して貰い確認している。看取りの勉強会も行い、職員や主治医や家族で担当者会議を行い看取りプランを作成し、ケアの内容を振り返りながら、別途ミーティング等を行い、利用者や家族を支えながら看取りを行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習に参加している。 ご入居者を想定した救急対応をマニュアルを確認しながら職員で実践を行っている。		

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の下、風水害・地震・火災及び昼夜を想定した避難誘導訓練を年2回実施している。運営推進会議等で地域住民へ訓練への参加の呼びかけ、実施報告を行い、協力体制の呼びかけを行っている。	年2回、消防署立会いで夜間を想定して避難訓練を行い、それ以外にも年2回通報訓練や、消火器を使用したり、AEDを使用しての防災や緊急時の訓練を行っている。今後は地域の防災訓練にも参加予定で、非常袋(乾パン・水・薬・氷砂糖・防空頭巾・ヘルメット)も準備している。	年2回の消防訓練や年2回の防災や緊急時の訓練を行われ、避難訓練時は地域に声掛けをされているが、参加はされていないので、今後は地域の協力体制を得られる様な取り組みが望まれる。また、避難場所は一部の家族のみが知っている状況の為、全ての家族に避難場所を連絡し、有事に備えられることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の心得10条に基づき、ご入居者の人格を尊重したケアの提供を行っている。言葉遣い等に関しては特に注意を払っている。	今月グループ全事業所あがりの接遇マナー強化月間であり、年間研修の中にも接遇マナーの研修は定期的に行われている。「挨拶は、目を見て」等の標語を職員ロッカーに貼り、標語を更新している。日常的に職員間でも注意しあい気を付け、人格を尊重した言葉掛けを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の声を伺い、その希望に沿ったケアを提供している。ご本人の意向を尊重しながら様々な選択肢を提案し自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人ひとりの生活習慣を把握し、ホームにおける生活もご入居者のリズムに合わせた支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の趣味などをお伺いし、ご要望に応じて外出支援等を通じ身だしなみへの意識やおしゃれを楽しんでいただけるよう努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者の能力に応じて調理・味見・盛り付け等を職員と共にやっている。一人ひとりのペースで食事ができるよう配席にも配慮し、職員も一緒に食事を摂り楽しい雰囲気づくりに努めている。	利用者にも食べたいメニューを聞き、栄養士が1週間分のメニュー表を作成し、家族にも送付している。利用者の下ごしらえ等の協力を受けて、職員が調理し、治療食等の対応も出来る。外食も2~3か月に1回行い、お弁当等を仕出し屋から購入したり、寒い時期には刺身のメニューもあり、変化のある楽しみな食事の提供を心掛けている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示のもと、食事・水分量の把握に努め記録にも残している。ご入居者の状況に沿った食事・水分の形態、必要に応じた介助を行っている。		

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人ひとり声かけをし、ご入居者の状況に応じて介助・見守りを行っている。各自に応じた物品(スポンジ・オーラルバランス)を使用をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。その方独自のトイレサインの共有を職員間で行い排泄の支援を行っている。オムツ類に関しては状況に応じ、オムツ業者とも相談しながら検討している。	一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排便コントロールの必要な方は、排便の大まかな量も棒線に表示し記入している。リハパンツの利用は職員間で様子観察や検討を行い、布パンツとパット使用への改善につなげた。トイレを拒まれる利用者には声掛けの職員を替えたり、時間を空けて声かけし、無理強いしない対応を心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因と排便ショック等の影響を理解し、排泄表で排便間隔を把握しご入居者に合った水分・乳製品の提供を行いスムーズに排便できるよう支援をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望の入浴時間を伺ったり、その方の体調に合わせた入浴を支援をしている。また、入浴剤等を使用したり、職員二人介助を行うなど個々に沿った支援を行っている。	個浴でお湯はその都度を交換し、好みの湯温で入浴出来、入浴剤等も数種類準備されており、利用できる。基本は週3回の入浴となっているが、毎日入浴されている利用者もおられ、自宅の延長として、満足してもらう様に毎日入浴出来る取り組みもやっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない様子のご入居者にはホットミルクや足浴の提供を行い、リラックスして安眠に繋がるよう支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師による配薬時、薬の内容確認等を行っており、服薬内容が変更になった際は職員間で情報共有をしている。その方が内服しやすい形状で投薬している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活の情報を伺い、得意なことを披露する場を設け、一人ひとりが好きな事ができる時間の提供をしている。		

H25自己・外部評価表(GHウィズライフ西新)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ったレクリエーションや外出が行えるよう取り組んでいる。	年1回はバスハイクで車椅子の利用者も出掛け、毎年初詣でタクシーを利用して職員同行で出掛けている。季節の花見やどんたく見物等に出掛ける事も多く、校区や幼稚園の運動会に参加し、散歩がてら駅前の商店街やスーパーにも立ち寄り、外出の機会が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで管理をしているが、買い物時には財布からの支払いをしていただく等社会とのつながりが持てるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んであるご家族に手紙を書いていたいたり、電話をかけていただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所に応じた空間づくりを行い、室温・採光などご入居者の希望を伺いながら調整をしている。 季節の飾り付けや花を生けたり季節感を感じていただけるようにしている。	昨年、改装を全面的に行い、2・3階は木目基調で落ち着いた趣で、1階は白を基調とし、リビングは白いソファの横に赤い丸い椅子を置きはっきりとしたコントラストである。ピアノが置かれ毎週歌会が3ユニット合同で開催され、大きな窓からは藤棚や紅葉等が見え、季節の移ろいが感じられる。1階のユニットで小型犬を飼われており、各階を移動し愛嬌を振りまいている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブル席・ベッドを配置し、好きな場所で過ごせるように配慮している。気の合うご入居者同士の交流も他ユニットを問わず行われている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を持ってきていただくことでご本人が心地よく過ごせるような居室づくりを行っている。	備え付けの電動ベットやエアコンがあり、入所時に壁紙と床の貼り替えを行い、希望でカーペットをフローリングにも変更出来る。馴染みの物の持ち込みも出来、今まで利用していた家具やソファやテーブルやテレビや額縁等が置かれ移動スペースの邪魔にならない様に配置されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部や車椅子もゆったり通れるよう作られており、廊下には手すりが設置されており自立した生活が送れるようにしている。段差等はリハビリ運動として利用している。		